

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)  
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、

「理想」を創造する

## 「みんなの」想いを まちづくり」

空席となっていた教育長を10月の臨時議会で提案し、承認していただきました。副町長も10月13日から就任の運びとなり、11月には町の三役が揃うこととなります。まちづくりを進めていくための新体制が次第に固まっています。

10月7日から始まった町民ワークショップ、10月19日に開催された島根県中山間地域研究センターの藤山浩さんをお招きしてのまちづくり講演会、そして、若手職員によるプロジェクトチームの活動と「3000人の楽しい町」づくりに向けての動きもこれからますます加速していきます。江府町の未来を切り開いていくためには、住民の皆さんの参画が不可欠です。できるだけわかりやすく情報提供をするよう心がけますので、ぜひ、まちづくりの催しに積極的に足をお運びいただくとともに町政に対する建設的なご意見、ご提案をいただきますようお願いいたします。さて、10月30日に江府中学校の文



化祭に出席しました。「江府町を考えるフォーラム」のゲストとして観光協会の遠藤さんと一緒に江府町の魅力についての意見交換を中学生の皆さん、そして地域の皆さんと行いました。私からのメッセージとして江府町の「人」の素晴らしさと「ともに江府町を楽しみたい町にしたい」ということを伝えました。中学生の皆さんは「は外に出たい」といふことあると思いますが、ぜひ自分の生まれ育った町に誇りと希望を持ち、未来のまちづくりにかわって欲しいと思います。フォーラムの後、第46回江府町中学校吹奏楽部定期演奏会を聴いても感動しました。伝統を受け継ぎ、磨き上げ、進化させているその姿を見て、「未来に夢が描ける町」にするのは、こういうことから始まるのだと確信しました。人口は少なくとも、一人ひとりが輝き楽しく暮らせる町を、目指していこうではありませんか。

# 「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム報告

第2回目となるこのコラムを書かせて頂くことになりました。教育委員会社会教育課の中川敦紀です。

私は江府町で生まれ、高校卒業後に県外の大学に進学しました。そして大学を卒業した後、民間企業に就職し約七年間務め、今年から役場で務めさせていたたいしております。

高校時代は部活動に明け暮れ、平日は始発電車で帰りは夜8時。土日はほぼありません。大学は県外、社会人になってからは何度もの転勤。今まで10年以上にわたり、ほとんどの時間を江府町から離れて過ごしていたわけですが、やはり「生まれ育った江府町に帰りたい!」と思いが膨らみ、現在に至ります。

白石町政となり発足したこのプロジェクトチーム。恥ずかしながら現場職員としてまだまだひよっこな自分です。そんな状態でチームに参加することについて初めは全く自信がありませんでした。悩みましたが先に立候補していたメンバーに背中を押してもらい、自分も挑戦してみようと思うようになりました。

さて先日、メンバーのうち4人で島根県雲南市に赴き、実際に行なわれている「小規模多機能自治」という仕組みを学び、それを担っている「地域自主組織」の視察を行いました。

動画で町報こうふ!



報告会の様子は動画サイトYouTubeでご覧いただけます!

た。そして新町2丁目公民館をお借りしてその報告会と意見交換を行いました。20数名の方に参加をいただきました。有難うございました。このような会を様々な場所で継続して行い、叱咤激励をいただきながら危機感や未来の可能性について共有する仲間を増やしたいと考えています。最後に受け売りですが、地域が「元気だ」とか「力がある」と言われるのは、単に人口が多かったり人口密度が高かったり、若い世代の比率が高かったりするからではなく【人交】密度、つまり人と人との交わりの密度が高いからであるという。雲南で地域づくりを積み重ねてこられた方々の姿を拝見して気付くことができました。雲をつかむようなこのプロジェクト。目指すべき姿が見えてきたように思います。(中川敦紀)



▲研修先で感じたことなどを模造紙にまとめて報告しました